

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名：景気ウォッチャー調査(9月)
～ 順調な回復 ～

発表日：10月11日(火)

(No. J - 133)

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 新家 義貴(03-5221-4528)

		景気の現状判断(方向性)				景気の先行き判断(方向性)				景気の現状判断(水準)			
		合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連	合計	家計動向 関連	企業動向 関連	雇用関連
04年	8	50.7	47.8	52.9	65.7	51.7	50.3	51.1	61.9	44.8	41.3	48	61.9
	9	47.3	44.6	49.7	61	50	49.3	49.1	57.3	42.7	38.8	47.3	59.9
	10	46.4	43.6	48.2	61.3	48.8	47.8	47	59	41.4	37.8	44.9	57.9
	11	45.3	43.1	46	58.4	45.8	45.2	44	53.1	40.9	36.9	44.9	58.8
05年	12	44.2	43.4	42.6	52.8	44	43.4	43.1	49.6	40.7	38.2	42.1	54.3
	1	45	44.3	43.1	53.5	48.3	48.1	46.5	53.2	40.2	37.8	40.3	55.3
	2	45.6	44.1	46.2	54	49.9	50.1	48.1	52.5	40.4	37.3	43.4	54.4
	3	49.5	48.3	50.1	56.4	49.8	49.9	47.5	54.2	44.2	42	46.1	54.9
	4	49.8	49	50.6	53.6	50.3	49.9	49.7	54.3	44.9	42.9	47.4	52.8
	5	50.3	49.7	50.1	55.1	51.9	51.6	50.7	56.2	45.1	43.5	46.1	53.5
	6	50.9	50.4	49.3	57.4	51.2	50.3	51.1	57.4	46.6	45.2	47	55.5
	7	50.4	49.3	49.7	58.8	52	50.9	52	58.4	45.8	43.6	46.9	57.1
	8	50.5	49.1	50.9	59.5	51.9	50.7	51.4	61	46.3	44.4	47.7	56
9	51.7	49.6	53.2	62.1	53.1	52.4	52.3	59.1	47	44.2	50.3	58.4	

前年差

04年	8	4.3	3.3	4.8	9.9	2.8	2.5	0.8	8.4	8.9	6.9	9.7	21.4
	9	▲1.3	▲1.6	▲1.5	1.0	0.1	0.3	▲0.6	0.7	4.6	2.8	6.4	13.5
	10	▲4.4	▲5.2	▲4.3	1.1	▲2.3	▲2.6	▲3.8	2.0	▲0.1	▲2.5	2.4	10.3
	11	▲3.0	▲2.7	▲4.8	▲1.3	▲2.7	▲1.8	▲5.3	▲3.1	2.2	0.6	2.5	11.9
05年	12	▲4.9	▲3.9	▲7.4	▲6.3	▲3.8	▲2.8	▲5.7	▲6.5	0.0	▲1.3	0.2	7.5
	1	▲3.6	▲2.6	▲6.1	▲5.6	▲2.9	▲2.0	▲4.7	▲6.2	▲0.3	▲1.1	▲0.9	4.9
	2	▲4.5	▲4.0	▲5.1	▲6.9	▲3.7	▲2.9	▲3.6	▲9.2	▲1.9	▲2.9	▲0.2	1.0
	3	▲4.2	▲3.1	▲5.3	▲8.7	▲3.8	▲2.3	▲6.1	▲8.9	▲1.4	▲1.1	▲2.2	▲2.2
	4	▲5.9	▲4.3	▲8.1	▲11.9	▲5.0	▲4.2	▲5.6	▲8.9	▲2.9	▲2.3	▲4.2	▲4.6
	5	▲2.5	▲0.8	▲5.0	▲8.5	▲3.1	▲2.5	▲3.3	▲7.0	▲0.3	0.7	▲1.8	▲3.9
	6	▲0.5	1.4	▲4.7	▲5.2	▲2.9	▲3.0	▲1.9	▲5.0	1.5	3.1	▲1.5	▲3.5
	7	▲3.9	▲3.1	▲6.2	▲5.2	▲1.4	▲0.7	▲2.5	▲4.8	▲2.9	▲2.8	▲4.0	▲2.1
	8	▲0.2	1.3	▲2.0	▲6.2	0.2	0.4	0.3	▲0.9	1.5	3.1	▲0.3	▲5.9
9	4.4	5.0	3.5	1.1	3.1	3.1	3.2	1.8	4.3	5.4	3.0	▲1.5	

(出所)内閣府「景気ウォッチャー調査」

○ 目立つ企業部門の改善

本日公表された9月の景気ウォッチャー調査によれば、現状判断DI(方向性)は51.7、先行き判断DIは53.1と、それぞれ前月から1.2ポイントの改善となった。また、現状判断DI(水準)も47.0と0.7ポイント改善している。現状判断DI(方向性)は5ヵ月連続、先行き判断DIは6ヵ月連続で水準が「景気に中立」を意味する50を上回っていることに加え、前月からの改善幅も大きく、非常に底堅い結果といえる。

内訳をみると、これまで出遅れていた企業動向関連の改善がここ数ヶ月間特に目立っている。景気の現状判断(水準)で見ても昨年7月以来の50を超えとなっており、企業部門は停滞局面をほぼ脱したと判断される。一方、年初以降改善傾向が顕著だった家計部門に関しては、ここにきてやや足踏みがみられる。9月は若干の改善となったものの依然として50割れであることに加え、ウォッチャーのコメントでも、残暑による秋物衣料の売れ行き不振等、ネガティブなコメントが散見される。足元で、消費はこれまでの高い伸びの反動からやや伸びを鈍化させている模様である。もっとも、先行き判断については大きく改善し「景気に中立」を意味する50も上回っていることから、消費の先行きについて悲観する必要もなさそうだ。消費の源泉と

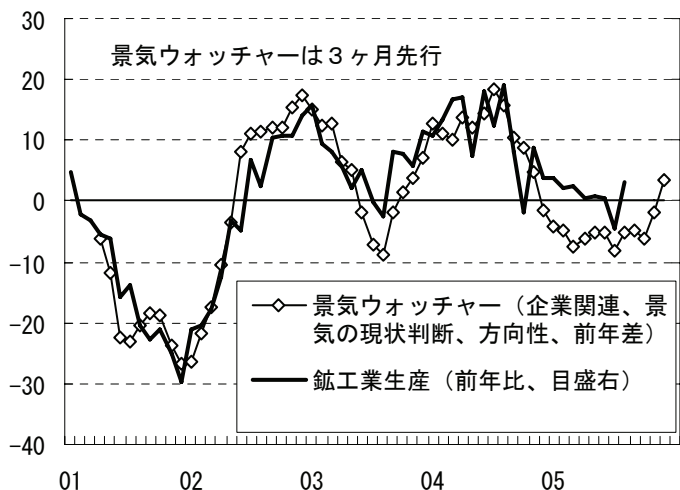
なる雇用・所得環境が順調に改善していることから考えて、今後の消費は巡航速度で緩やかに増加していくと考えられる。

○ 10-12月期には回復明確化か

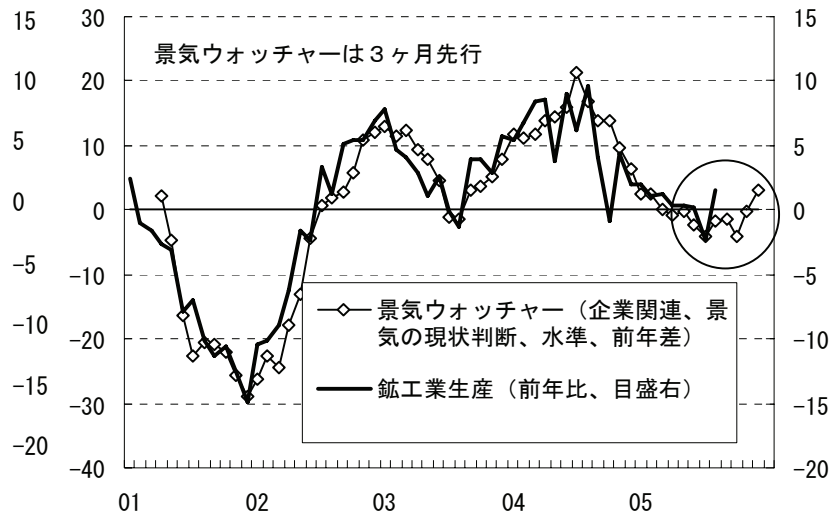
なお、景気ウォッチャー調査は歴史が浅いこともあって季節調整値は作成されておらず、原系列のみの公表となっている。そのため、景気ウォッチャー調査を見る際には、公表されている原数値ではなく、前年差(もしくは季節調整値)も見る必要がある¹。実際に、景気ウォッチャー調査の、企業動向関連のD I前年差をとったものと鉱工業生産の前年比を比較すると、鉱工業生産に2～3ヵ月程度先行する形で高い相関を示す。

そこで、9月調査での前年差を確認すると、現状判断D I(方向性)は+4.4(前月▲0.2)、先行き判断D I(方向性)は同+3.1(前月+0.2)、現状判断D I(水準)は同+4.3(前月+1.5)と、2ヶ月連続ですべて前月から大きく改善を示している。景気ウォッチャー調査の鉱工業生産に対する先行性を勘案すると、10～11月頃には生産の回復が明確化してくることが示唆されている。実際、これまで低迷していた輸出に持ち直しの動きが出始めていることに加え、設備投資も引き続き底堅い推移が予想されるなど、明るい材料は多い。今後、年末にかけて景気は徐々に回復力を強めてくると考えられる。

景気ウォッチャー調査(企業関連、方向性)と
鉱工業生産



(P) 景気ウォッチャー調査(企業関連、水準)と鉱工業生産 (%)



¹調査に際しては、各ウォッチャーに対してなるべく季節要因を判断の根拠としないようにとの指示が出されているようだが、それでもなお、過去の結果を見る限りでは、年末に悪化し年初には上昇しやすいといった季節性が窺える。